

『『孤高の努力家』イチロー選手』(小野修司)

[おすすめしたい本:夢をつかむ イチロー262のメッセージ
(「夢をつかむ イチロー262のメッセージ」編集委員会)]

メジャー・リーグ現役最年長にして、今もファンの注目を浴び続けるイチロー選手。記録と記憶に残る、その秀逸なパフォーマンスはいつも、それと同じほど味わい深い至言とともにあり、それこそが他の選手とは一線を画する、彼の最大の魅力となっている。

豪快なメジャー・リーグ・ベースボールにありながら、しばしばその対極にある彼独特の繊細な野球哲学は、私たちの社会生活に通底する人生哲学としても示唆に富んでいる。そうした至言の集大成ともいえる本書は、読むほどに行間の含蓄が見え隠れし、私にとっては、一読で事足りるものではない。さらに、彼の「現在進行形」のパフォーマンスやインタビューに接するたびに、一つひとつの言葉の持つ無限の広がりや深まりに、改めて驚かされる稀有な一冊である。

一つとしておろそかにしたくない彼の至言だが、一つだけ選ぶとしたら、私は迷うことなく、「ムダなことを考えて、ムダなことをしないと、伸びません」を選びたい。「思考錯誤」を重ねた上での「試行錯誤」の大切さ。いわゆる頭でっかちでもなければ、精神論に振り回されたがむしゃらでもない。合理的・科学的で、クールな印象が先行をしがちな彼だが、実は「ムダ」という名の「努力」を決して惜しまない、ホットなハートの持ち主であることは一目に値する。その延長線上にある次の至言もまた、哲人イチローを語る上でははずせない。「ぼくは天才ではありません。なぜかという自分はどうしてヒットが打てるかを説明できるからです。」ムダな思考錯誤も、ムダな試行錯誤もない。というより、どちらもムダにしないように、すべてを言語化して、心身にしみこませていく。そんなイチロー選手らしい有機的な心身一如の凄みこそ、彼の生き方の一貫性だと私は思う。

「孤高の天才」と呼ばれるイチロー選手が実は「孤高の努力家」であることを教えてくれる本書。広く老若男女に一読をお勧めする。